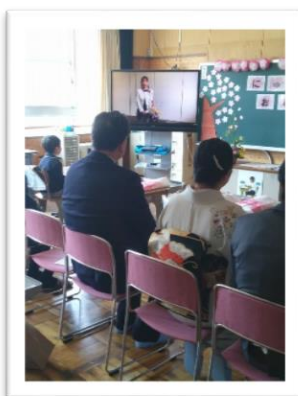


ひとなる

発行：白川町教育委員会
—「白川を愛し、たくましく心の
あったかい子を育む美濃白川」—

春満開 えがお満開



4月4日（金）に町内保育園で入園式が、4月7日（月）には小学校と中学校で入学式が行われました。町内では、4月から保育園に73人（保育園は入学年等が違うため在籍児数）が在籍しています。小学校に23人、中学校に55人が入学しました。園児・児童・生徒は、新しい学年で、それぞれの目標をもって頑張りました。町内の園や学校では、150名ほどの教職員が、子どもたちの成長を支えています。「白川を愛し、たくましく心のあったかい子」を育てるために、これからも地域の皆様の温かいご支援をよろしくお願ひします。

白川町の教育について

「VUCAの時代」唐突ですが、この言葉を耳にされたことはあるでしょうか。

OECD（経済協力開発機構）が2030年を「予測困難（Volatility）で不確実（Uncertainty）、複雑（Complexity）で曖昧（Ambiguity）」な時代になる、と予測をしました。この「VUCAの時代」を生き抜くには、子どもたちにどんな力をつければよいのでしょうか？

文部科学省では、これまでの会議の中で、次のようなことが大切であると言っています。

- ・自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりすること
- ・持続可能な社会づくりを担っていこうとする意欲をもつこと
- ・多様な人々とつながりをもつこと

これはつまり、『「自主性」「創造性」「行動力」「強い意思」「協働性」等が大切です』ということです。

では、白川町では、「どんな子どもたちに育ててほしい」と願っているのでしょうか？

右の写真は2021年3月に町が作成した「白川町第6次総合計画」の冊子です。これは、町がめざすまちづくりの方向性や将来像を明らかにし、2028年に向け、その実現のために必要な施策を体系化したものです。

この計画を元に教育委員会では

- ・求め学び磨く楽しさを知る子
- ・「共生」を心に刻み歩める子
- ・ふるさと白川を愛する子

を育てていきたいと考えています。



以上、昨今の世の中の動向や町の中期的な計画を踏まえ、今年度は下記のことを特に意識しながら教育活動を進めていきます。そのためには地域の方々の力や協力が必要となってきます。これまでどおり「学校」「地域」が一体となって子どもを支えていけるよう、これからもよろしくお願ひします。

【意識すること】

- ・同学年や異年齢という集団の中で人間関係の作り方を学び、信頼関係を築き、社会性を身に付けること
- ・一人一人の多様性を重視し、相互に認め合える温かい人間関係をつくる力を付けること
- ・創造的に考え、失敗を恐れず主体的に取り組む勇気と強さ、しなやかに立ち直る力を付けること

【教育活動の具体例】

- ・白川町ならではの豊かな教育活動（自然、白川茶やヒノキ、地域の祭り、伝統芸能等）を展開しつつ、持続可能なまちづくりにするためにはどうするかという創造的な体験活動も展開する。
- ・地域先生等を活かした「学校の特色ある教育活動」（山登り、地域を守る活動、外国語活動、起業家学習等）を充実する。
- ・先人の功績を知ったり思いや願いを感じたりする読書活動をさらに充実させ体験を補う。
- ・思いを伝えあったり、筋道を立てて考えたりするために、「豊かな言葉（表現）」を習得し、使いこなす教育活動を実践する。
- ・子ども自身が自分の可能性を見つけ、将来、自分は社会のために何ができるか、何をすべきかという志の芽を育てる。

5月の子どもたちの主な行事

5月21日（水） 白川中運動会

5月23日（金） 黒川発見ウォーク（黒川小）

5月24日（土） 黒川中体育祭